

『福島原発事故は

人びとに何を

もたらしたのか』

刊行1周年記念シンポジウム

原発事故から14年―避難指示区域の解除が進み、復興交付金事業の区切りを迎えた自治体がある一方で、いまだ帰還困難区域を抱えている地域があります。本シンポジウムでは、『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか』出版から1年を経て、改めて福島原発事故被害の現在性を、福島隣県の茨城の地から大学間連携で考えます。

プログラム

第1部

開会のあいさつ・趣旨説明

13:00~

🗨️ 原口弥生 | 茨城大学人文社会科学部 教授

13:10~

< 報告1 > 福島原発事故がもたらした分断の諸相

🗨️ 藤川賢 | 明治学院大学社会学部 教授

< 報告2 > 避難者を受け入れた被災地の葛藤

🗨️ 高木竜輔 | 尚絅学院大学総合人間科学系 准教授

< 報告3 > 「生活再建」の複雑性と埋もれる被害

🗨️ 原口弥生

< 報告4 > 「福島復興」をめぐる考察

🗨️ 関礼子 | 立教大学社会学部 教授

14:30~

< 休憩 >

第2部

コメントとディスカッション

🗨️ 蓮井誠一郎 | 茨城大学人文社会科学部 教授

14:45~

< コメント1 > 自主避難者調査のバックグラウンドから

🗨️ 清水奈名子 | 宇都宮大学国際学部 教授

< コメント2 > 伝統行事調査のバックグラウンドから

🗨️ 廣本由香 | 福島大学行政政策学類 准教授

15:05~

コメントへの応答とディスカッション

15:55~

閉会のあいさつ 関礼子

🗨️ 総合司会 | 中田 潤 | 茨城大学人文社会科学部 教授

🗨️ | 登壇者 🗨️ | コーディネーター 🗨️ | コメントーター

主催 | 茨城大学人文社会科学部市民共創教育研究センター、立教大学社会学部

共催 | 環境社会学会 震災・原発事故特別委員会・研究活動委員会、
茨城大学・宇都宮大学・福島大学・三大学研究コンソーシアム

問合せ ☑️ yayoi.haraguchi.yh(@)vc.ibaraki.ac.jp (原口弥生 | 茨城大学)

☑️ seki(@)rikkyo.ac.jp (関礼子 | 立教大学)

2025.2.22
Sat 13:00~16:00

茨城大学図書館3階
ライブラリーホール
(茨城県水戸市文京21-1)

どなたでもご参加いただけます (予約不要)



原発事故がもたらした大きな分断と喪失。事故に至る加害構造が事故後に再生産される状況のなかで、被害を封じ込め、不可視化していく方は、人びとに何を割奪し、被害を増幅させたのか。複雑で多面的な被害を生き抜いてきた人びとの姿を見つける。

「復興」と「再生」のなかで
増幅され埋もれていく被害